資料１

第６回大野市小中学校再編計画検討委員会

と　き　令和２年 11 月 24 日（火）
　　午後７時より
ところ　結とぴあ 305、306 号室

１　開会

２　開会あいさつ

３　議事

（１）小中学校の再編について

（２）その他

４　その他

５　閉会あいさつ

大野市教育理念

《理念本文》

明倫の心を重んじ　育てよう　大野人（おおのびと）

《宣誓文》

人としての生きる道を明らかにし、進取の気象を育てた明倫の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切にして、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、学び、育てることに努めていきます。

平成２１年３月　　大野市教育委員会

明倫（めいりん）とは

大野藩第７代藩主土井利忠（1811～1868 年）は、藩の政治や経済の建て直しには、新しい知識を学んだ人材が必要であるという考えに基づき、弘化元年（1844 年）に藩校「明倫館」を開設しました。明倫館の「明倫」という言葉は、「皆人倫を明らかにする所以なり」に由来し、人の生きる道を明らかにすること、すなわち、人として守り、行うべき道を明らかにすることを指しています。

明倫館は、当時としては珍しく、武士の子弟に限らず、広く一般家庭の子どもたちにも門戸を開いて学ばせていました。そして、ここで育った人材は、大野藩の商業や鉱業などを盛んにし、藩財政の再建に大きく貢献したと言われています。私たちは、この史実に基づいて、大野の教育の全てを貫く普遍の理念を「明倫」と定めます。

資料No.１

大野市小中学校再編検討委員会検討事項の論点整理

論点	教育委員会の方針	検討委員の意見	方向性（委員の考え）
１　学校数 （１）中学校	複数学級による編成とする。 生徒に過度な負担等が想定される場合は、別途検討する。	①　当分の間、２校案で進み、１０年後の生徒数を鑑みて、再度再編を検討する。 ●（委員長補足）当分の間２校にするも、原則「※大野市小中１校体制」により、遠隔による合同授業や、部活動の連携、教員数の少ない教科の連携等に努める。 ※大野市小中１校体制 市内の小学校、中学校を一体的にとらえて、同じ時間割、カリキュラムなどにより、今よりもさらに学校間の連携を行いやすくする体制 ②　５校を１校に再編する。 ③　全学年４学級でないと、専門教科教員が配置されない教科がある。	
（２）小学校	複式学級を解消する。 学級編制は複数学級が望ましい。 児童に過度な負担等が想定される場合は、別途検討する。	①　複式学級の解消を目指したほうが良い。 ②　少人数学校のメリットを生かした教育を進めるほうがよい。 ③　複式学級が出現したり、出現する見込みとなったら再編する、といった基準を設けてはどうか。	
（３）和泉小中学校について		①　通学時間、距離が児童にとって過度な負担となることが想定されるため、小学校は残したほうが良い。 ②　他地区と同様に、小学校、中学校ともに再編する。 ③　中部縦貫自動車道の整備やＩＣＴ教育などの状況を見定めたうえで、保護者や地区住民の意思を確認し学校再編を検討する。	

２　再編時期	慎重に丁寧に、着実に進める。	①　再編してもその後の児童生徒数の減少が続き、更なる再編検討の必要性があることから、段階的に進める。 ②　中学校は１学年１学級、小学校は複式学級となる学校の再編を喫緊の課題とする。 ③　中学校は、令和５年度をめどに再編に取り組む。	
３　再編方法 （学校校舎）	校舎の現状を勘案する。	①　段階的に再編を進める場合は、校舎は現行の校舎を可能な限り使用する。 ②　今後も児童生徒の減少が続くことから、しばらくは改修にとどめる。 ③　新築する。	
４　学校の教育内容と地域を支える機能	ふるさと教育に重点的に取り組む。 外国語教育やＩＣＴ教育を進める。	①　ふるさと教育をさらに前進させ、大野の明日を創り出すことに取り組む「未来の大野市民の育成」を目指した独自教育を実施する。 ②　児童生徒に一人一台のタブレット端末が整備されるようになり、どのように学校や教育が変わるのか、モノや時代が変わっていくということも考えるべき。 ●（委員長補足）ＧＩＧＡスクール構想を実現するとともに、遠隔授業の設備を整え、和泉地区との連携を含め、その他小規模校との合同授業を進める。 ●（委員長補足）大野市の人口減少を食い止めるには、リモートワークの先進地になることであり、そのための教育資源としてもＥｄＴｅｃｈの先進地域となる。大型モニターの設置により、授業だけでなく、学校生活の共有も実施し、協働と進取の気象を持った大野市民の育成に努める。	

		●（委員長補足）遠隔授業の恒常化を進めるためには、小中すべての学校が一丸となって取り組む必要があり、原則「※大野市小中１校の体制」を構築する。 ③　部活動に関しては、大野市全域を対象とした各種目別クラブチームの育成を進め、その活動の場を保証するよう福井県に働きかける。 ④　学校は地区の心のよりどころである。地区にある公民館などとの連携をこれまで以上に進め、一体的に地区を支える仕組みを構築する。 ⑤　学校の再編の有無にかかわらず、放課後の児童の居場所（児童センターや学童保育）を構築する。 ⑥　学校給食は、児童生徒の栄養管理のみならず、子どもの豊かな生活の指標ともなることから、自校給食を継続する。 ⑦　大野市の教育を充実させるために、大野市出身の教員が必要であり、その確保に努める。	

その他

学校の適正規模の「適正」を、議論してベターな状態ということについて一致点を見つけたい。

スクールバスを利用する場合でも、部活動を終えてからの帰宅時間が午後７時を超えることは遅いのではないか。

学校を共同生活、社会生活を学ぶ場として、一定の規模が必要。

学校での教育（ソフト）に関しては、再編の形が決まってから、それぞれの学校で考えればよい。

参考資料

令和２年１０月

第５回大野市小中学校再編計画検討委員会
会議録

日　時：令和２年１０月２２日（木）午後７時０５分～午後９時０３分

場　所：学びの里「めいりん」　講堂

第５回大野市小中学校再編計画検討委員会　次第

と　き　令和２年１０月２２日
午後７時より
ところ　学びの里「めいりん」

１　開会

２　開会あいさつ

３　議事

（１）大野市が目指す学校教育について

（２）委員の所属団体からの意見聴取結果について

（３）その他

４　その他

５　閉会あいさつ

＜出席者＞

	委員長	松　木　健　一
	副委員長	遠　藤　洋　子
	委　員	中　村　昌　嗣
	委　員	朝　日　智　幸
	委　員	金　井　和　信
	委　員	山　川　龍　一
	委　員	常　見　悦　郎
	委　員	宮　澤　則　博
	委　員	細　道　常　貴
	委　員	丸　山　力　哉
	委　員	上　田　智　亮
	委　員	山　本　恭　子
	委　員	伊　藤　恵利奈
	委　員	斉　藤　雄　次
事務局（説明者）	教育長	久　保　俊　岳
	事務局長	清　水　啓　司
	教育総務課長	横　田　晃　弘
	学校教育審議監	千　田　　佐
	教育総務課課長補佐	松　下　裕　子
	教育総務課課長補佐	小　林　勝　信
（書　記）	教育総務課主事	堀　　利　考

＜欠席＞

委　員	松　田　寿　子

＜傍聴者＞　　２７人

【開会】

【事務局】本日は２７名の傍聴を許可したので報告する。それでは第５回大野市小中学校再編計画検討委員会を開会する。

――＜大野市教育理念の唱和＞――

【開会あいさつ】

【委員長】本日は大野市が目指す学校教育について、教育長から最初に説明をいただく。
【教育長】今回で第５回目の検討委員会となり、毎回の熱い議論に感謝申し上げる。本日は大野市が目指す学校教育を中心に議論していただきたいと思う。大野市の基本的な考え方を説明し、委員の皆様から意見を伺いながら議論に加わらせていただくことが教育長としての大きな使命だと思っている。本委員会の委員ではないが、特に議事（１）について、同席させていただきたいのでよろしくお願いしたい。
【委員長】今日の題材は大野市が目指す学校教育についてということで、教育長に参加していただいてもよろしいか。
――＜委員了承＞――

【議事】

【委員長】（１）大野市が目指す学校教育について、教育長の説明をお願いする。
――＜教育長説明＞――
【委員長】これからの学校の在り方について、かなり具体的に提案されていると思う。すぐに意見をということではないので、教育長には在席いただき、続けて事務局の説明をお願いする。
――＜事務局説明＞――
【委員長】事務局が説明した資料も含めて、ご意見、ご質問等があればお願いする。
【委員】資料 No.２、３（１）①について、保育園の保護者にアンケートを取ったところ、資料に記載されている規模がいいという声が多く、市民の声が反映されていると思う。教育長としては資料に記載されているように、学級の人数が１１人～２０人で、１学年１学級でよいと考えているのか。今までの議論で出てきているような、１学年５学級以上あるような学校がいいと考えているのか。
【教育長】人数にこだわるつもりはない。学級の適正な人数は地域や状況によっ

て異なる。アンケートの結果を見ると、小規模の学級の子どもたちは、そこしかわからないということもあり１学級でもよいと答えている。中学校の子どもたちは、小学校が集まり大人数になるとたくさん友達ができてうれしい、クラス替えがあって楽しそうといった充実感、期待があるということを資料に記載させていただいた。不安と期待にどう応えていくかを考えていかなければならないと思っている。

【委員】現段階ではこのような市民の意見があるのをわかっているが、着地点はどうなるかわからないということか。

【教育長】そう思っている。保育園保護者会連合会でアンケートをとっていただき感謝する。教育委員会としては、昨年時間をかけて資料を整え、正式に発表しているので、その結果・声をしっかり分析していきたい。

【委員長】学級の人数の上限に関して法律が変われば、３１人で２学級になるということが出てくると思う。

【教育長】今回の資料は教育委員会の考え方としての骨子なので、ここにいろいろな肉付けをしていただけるとありがたい。

　例えば、大野市の地域性を生かすとして２点挙げているが、食の分野で自校給食の意見を出していただいている。自校給食という大野市が守ってきたいいところ、これからも進めていくべきところも含めてご意見を伺いたいと思う。自校給食は続けていきたいことの１つだと考えている。

【委員】複式学級はデメリットだけではないと思う。複式学級で育った人が社会に出たときに問題があるとも聞いたことがない。資料 No.２、３（２）①の複式学級を廃止し、という点が引っかかる。

【教育長】私も小学校１年生、２年生の時に複式学級で過ごした。複式学級が良い悪いではなく、それぞれ長所も短所もある。委員長がよく言われるように、大野市として何を取って何を取らないのかという選択が必要である。複式学級はあくまでも単式学級であるべきところを、複式にして同じ教室で２つの学年が一緒に学んでいる特例の措置であると考えている。そこは一般の単式学級で教育の機会を保障するのが使命だと思っている。複式学級を悪いとは思っていない。

【委員長】複式学級のメリット、デメリットがある。通常学級のメリット、デメリットがある。何を選ぶかということで、大野市としては通常学級のメリットを重視したいということになると思う。

【委員】一定規模の集団にするという案の中で、学校を集約することによりスクールバスを使うという案が出てくると思う。スクールバスで１時間以内を目安にするとあるが、中学校の場合、４時ごろに授業が終わるとなると、スクールバスで下校に１時間かかる子どもたちは、部活動を切り捨てなければならないのではないかと考えている。実際に再編し、スクールバスを利用している市町に視察に行ったことはあるのか。

【教育長】部活動に特化して視察したわけではないが、一昨年、県外に視察に行っている。たしかに１時間の通学時間は長く感じる。なるべく通学時間は短い方が良い。そのためにどうしようか、という風な考え方をしなければならないと思う。

ただ、現状で中学校の人数が少なくて良いと考えるのか、時間をかけてももう少し広い世界で教育を受けたほうが良いと考えるのか、これのどちらを選ぶのかという話になると思う。その時に通学時間は大きな課題なので慎重に考える必要があると思う。

【委員】ふるさとを知り、ふるさとを創る教育について、小学生を対象にして考えると、大野の食育や伝統文化を知ることはとても大切だと思う。小学校の給食時間の長さが気になっていて、短いと思う。数年前に別の委員会で給食の時間を長くできないか聞いたところ、国のカリキュラムをこなさなければならないので給食時間は長くできないとの回答だった。給食で大野の食のことを知ったり、噛む力を鍛えたりといったことも食育に入ってくるので小学校の給食の時間を少し長くして、食を楽しむということも大野のふるさと教育に入れてほしいと思う。

【事務局】コロナ禍ということで、子どもたちは新しい生活様式で学校生活を送っている。その中で、新しい生活様式による教職員や子どもの負担を考えて、週に１、２回掃除の時間を減らして時間を繰り上げるといった取り組みをしている。コロナ禍の中で見直している校時表をコロナが終息しても継続できるのではないかとも考えている。学校再編と絡めて大切なところは守っていきたいと思っている。

【委員】学校再編検討に向けた基本方針の中で大野らしい教育とある。今日の資料の中でも、教育長が全ては大野らしい教育が一番大切ということで具体的なものがあると説明された。再編をどうするかではなく、大野の今ある学校の素晴らしいところ、他の県や市町にないところ、さきほどの自校給食のような大野の素晴らしい教育の特色があれば教えていただきたい。

【教育長】委員の皆さんが、大野の教育をどう感じているのか、大野の教育を更によくするためにこうすべきだという視点で意見を言っていただけるとありがたいと思う。

私は、先ほど述べたように大野市として実現できるいいところのポイントはいくつかある。保護者の皆様の意見を聞かせていただき、検討委員会で議論をしていただけるとありがたいと思う。

【委員】大野の学校の自校給食が当たり前で育ってきたので、他は違うということを初めて知った。検討委員会で話を聞いて、自校給食はふるさと大野の良さを知るという意味でも残してほしいと思う。関連して、仕事柄最近の子どもの口の中の状況をよく診ているが、歯並びが悪かったり、口内状況が昔と比べてあまりよくなかったりする。虫歯の数は減ってきているが、歯並び等で変化が

起きている。大野の人数は何をするにしてもしやすい人数だと思う。少ないからこそ介入できると思うので、コロナ禍で廃止になった昼休みの歯磨きを再開してほしいと思う。自分が学生の時には学校で歯磨きをした記憶がないが、他県の友達に聴くと、昼休みに小学校や中学校で歯磨きをしてきたのが当たり前とのことだった。自分たちが経験してこなかったということは、大野市の歯科衛生教育としては少し足りなかったのかなと思う。福井県自体が歯医者の数が多くないので、せっかくなので大野市だけでもそのようなところに力を入れていくと健康衛生的にもいいと思う。

【委員】歯磨きの話がでたが、今の子どもたちは給食時間内に歯磨きをしている。余計に給食時間が短くなり、ゆっくり給食を食べることができず、かわいそうだと思った。歯磨きは給食時間外の昼休みに実施してほしいと思う。

【事務局】大野市の小学校でもここ数年、歯磨きを実施している。歯磨きに取り組んでいく時に課題となったのが、水道の蛇口の数。子どもたちが一斉に昼休みに歯磨きをしようと思うと、待ち時間が長くなってしまう。子どもたちにとっても昼休みは遊びたい時間なので、給食を食べ終わった子から歯磨きをしようと工夫している学校もある。その関係で、昼休みに一斉にできないという状況もあるのでご理解いただきたい。

【委員】資料 No.２、３（１）①について、コミュニケーション能力の高い子や普通に学校に通えている子であれば、充実感を感じることができると思う。あってはいけないことだが、いじめ等があって普通の学校生活が送れないという子どもたちがいた場合、あまり極端な合併をしてしまうと、その子たちの逃げ道や避難する場所が無くなってしまうと思うが、教育長はどうお考えか。

【教育長】２点ある。１点目は資料にも記載したが、複数の学級を実現する。小学校で実現できない場合は、中学校で実現する。９年を１つのスパンとして考えていくことも想定される。２点目、これもどっちをとるかという話になるが、中学校にいた時に、小さい学校から来た子どもによく声を掛けていた。子どもたちは自分の好きな子、気の合う子といればいいから気が楽、心配しないでと言っていた。大人数のところでも少人数のところでも、差別等があってはいけないが、少ないからない、大きいからあるといった考え方を教員はしない。どちらもそのような危険はある。少ない人数の時にそのようなことが起きた時に、なお逃げ場がないとも考えられる。大きい学校であれば、自分の居場所を見つけやすいという考え方もある。大切なのは、学校や保護者がどのようにその子たちを見守るか。資料の最後に「自信を持たせる教育で支える」と記載したのは、自分に自己肯定感がある子が増えれば、自分のことも相手のことも大切にできる。学校や保護者が子どもたちにどれだけ自信を持たせるか。いじめは人の自信を取って自分の下に置こうとする悲しい行為である。それを学校として責任をもって見ていく必要がある。大人数だから少人数だからということではないと思う。どのような環境でもしっかり周りの大人が見ていることに尽きる

と思う。

【委員】資料 No.２、２（２）について、小中学校に加えて未就学の段階から高等学校までの１８年間を強く連携させたシステムづくりとあるが、教育長の考えがあれば教えていただきたい。

【教育長】世の中がありがたい方向に動いていると思う。２０年前にも教育委員会に在職していて、2本の柱を挙げていた。1つは、学力をしっかり保障する。もう1つは、幼保小中の連携をしっかりする。それを大野市だけでは中々進めることができなかったが、文部科学省が１０年ほど前から幼保と小の接続を制度化した。そして、今の高校の魅力づくりでも中高の連携をしっかりしようというような動きになってきている。今はっきりとは申し上げられないが、是非実現したいと思っているので、ご協力をお願いしたい。

【委員】今の議論を聞いて、逃げ道という表現が正しいかどうかはわからないが、いじめの問題や ASD 等で学校に通えない、集団が苦手な子が出てくると思っている。保護者の中でもいじめ等の問題を心配している方が多いので、逃げ道は作ってほしいと思う。骨子に思いを肉付けして案に起こしていってほしいと思う。

【委員】資料 No.２、３（１）②について、中学校の校区に触れられていないのはなぜか。

【教育長】小学校と中学校を区別するつもりはないが、思いを込めて、「特に小学校では」と記載した。小学校の発達と中学校の発達を区別はできないが、発達の違いはしっかりと見てあげないといけないと思う。小学校の低学年は特に守ってあげないといけない。中学校の場合は、保護者との連携も必要だが、自分で切り抜ける、克服するといった生きる力を、見守りながらしっかりつけていってあげたいと思う。小学校に課されている使命と中学校に課されている使命は若干違うだろうということでそのように記載させていただいた。

【委員長】教育委員会の考え方について他にご質問等があればお願いする。

――＜質問なし＞――

【委員長】（２）委員の所属団体からの意見聴取結果について、各団体から和泉地区のことについて報告をお願いする。

【委員長】大野市 PTA 連合会から報告をお願いする。

【委員】大野市 PTA 連合会から、アンケート結果を説明する。各学校の PTA 会長の個人的な思いなので、PTA としての総意でないという前提で報告する。

中部縦貫自動車道が開通して、和泉 IC からスクールバスで３０分（積雪無し、自宅から和泉 IC までの時間は除く）は「長い」「短い」「良い」というアンケートを取った結果、「長い」との回答が７８％、「良い」との回答が２２％だった。

複式学級についてのアンケートでは、「複式学級で良い」が３６％、「１学年１学級」との回答が５７％だった。

複式学級のメリット、デメリットについてのアンケートでは、「知っている」が１４％、「だいたい知っている」が７２％、「知らない」が１４％だった。

諸事情を考慮して和泉地区に小学校を残した方がいいというアンケートでは、「存続したほうが良い」との回答が６４％、「統合した方が良い」との回答が２２％、無回答が１名だった。その他として、和泉の意見を尊重してほしいとの意見もあった。

小学校の再編について重要だと思うことというアンケートでは、一番大事だと思うことは「地域や保護者の関わり方」が多かった。次いで「複式学級の解消」、「学校の規模」、「通学距離・通学方法」が重要だとのアンケート結果となった。

その他の意見として、子どもたちの意見をしっかり聞いてほしい。和泉小学校の会長ではない方から、和泉小学校は地域と密接に関わっているため、再編は望ましくないとの意見もあった。他に、低学年から様々な文化やスポーツに挑戦できるような学校になってほしい。段階的に進めた方が地域・保護者の理解が得やすいだろう。学校再編と地域の存続（人口減少問題との整合性）を考えてほしい、市の人口減少対策会議で議論されている事項と逆行する施策となりうる地区もあることを理解していただきたい。

【委員長】他に意見をまとめてきた団体があればお願いする。

【委員】公立保育園連合会と民間保育園連合会で和泉地区、複式学級についてのアンケートを取ったので、その結果を報告する。

――＜別紙資料のとおり報告＞――

【委員長】他にあればお願いする。

【委員】校長会の結果を報告する。中学生については、大きな集団がよい、通学時間にも耐えられるだろうということで、全員が大きな集団の方にということだった。小学校については、大勢は和泉地区に残すという意見だった。１つのアイディアとして、通学時間が負担になるだろうということで４年生までは和泉地区の分校にという意見もあった。他にも、和泉地区に小学校は残すが、他の小学校に行きたいとの希望があれば校区変更を認めるという意見もあった。

【委員長】区長連合会についてはいかがか。

【委員】ありません。

【委員長】３つの団体から意見聴取の結果を発表していただいた。それぞれの意見を聞いて、和泉地区のことについての意見があったらお願いする。

【委員】２０２３年（令和５年）、２０２６年（令和８年）の計画が実現するかは別にして、和泉地区のことについて今結論を出さなくてもいいのではないか。将来的に学校を残すことはできないという結論を目的としないといけないと思う。個人的な保護者の意見で、教育の方針がフラフラしているのでは、財政的な措置も何もできないので、最終的には学校を残さない、合併するという結論をつけて話を進めていくべきだと思う。

【委員】この委員会の目的は、子どもたちの学校の教育、子どもたちのことを考えた学校教育とはというのが目的だったと思う。今言われた学校を無くすことが目的だったのか。

【教育長】子どもたちのためにということが大前提である。今回教育委員会として出した目指す教育、第１回の検討委員会で出した基本方針を連動して読んでいただきたい。先ほども小学校と中学校に求められている使命が違うと言ったとおり、小学校はあまり親元から離さない方がいいのではないか。小学校については地域で育てる。中学校については市全体で育てる。という基本的な考え方を教育委員会で持っている。

【委員長】和泉地区について、当分先延ばししてもいいが、最終的には廃校にするということを前提に考えた方がいいのではないかという意見をいただいた。

　教育長からは、まず子どもありき。小学校については地域で、中学校については市全体で育てるという意見をいただいた。

【委員】複式学級についていろいろと意見が出ているが、大野市全体の教育から考えると、平等に児童に勉学の機会を与えるのが教育委員会の責務だと思う。保護者が複式でもいいからといって複式を残すのはおかしいと思う。大野市の教育理念として、平等な教育を受けていただくという考えを持たないといけないと思う。

【委員】コロナの影響もあり、都会から地方に移住したいという人が増えている。大野市にも若い移住者が増え、福井県も移住に力を入れている。和泉地区は食の面から見ても、歴史も深い地域なので、子どもの教育にとっても大人の教育にとっても素晴らしい地域だと思う。今後、中部縦貫自動車道が開通し和泉地区に行きやすくなったら、和泉地区に移住者が増えるかもしれない。和泉地区の学校も人数が増えて今の状態を解消できる方向に持っていけると良いと思う。

【委員】平等の概念は難しい。今回保護者にアンケートを取って、学校毎に特色・差があってもいいのではないかと思う。平等とは何かを考えてほしいと思う。

【委員】和泉に複式を残すのであれば、大野市内の学校も特色や差があってもいいのではないかと思う。自由意見にあったように、行きたい学校を選べるようにしてあげた方が保護者や子どもたちにとってはいいのかなと思う。

　大野市の教育として大野らしさを推して、大野に帰ってきてほしい優秀な子ができても、大野に帰ってきても職がないから帰ってこられない人が多いと思う。大野市全体として雇用の問題などを連動して考えないといけないと思う。良い教育をしても、大野に帰ってこられない現状なので、人口が減っていっているのではないかと思う。子育てがしやすい、子どもの教育が良いといっても生活できる基盤がない限り、人口は増えないと思う。

【委員】大野市教育理念の、自信を育む教育に賛同する。和泉地区の小中学校で育ったが、クラス替えはなく席替えが楽しみだった。様々な知恵を出せば、いろいろな教育ができると思う。和泉地区のアンケートを取っていただいたが、

和泉で生まれて育った人は結婚して、大野に出てきている。和泉地区の人は大野に土地を持っている。委員の皆さんが言うように、大野から和泉へ行く、和泉の学校を残してほしいと地域住民に伝えたところ、学校を残してほしいと言っている人が和泉に移住してくれるのであれば大賛成と言っていた。移住は簡単にできるものではないと思う。和泉地区にぶなの木台がある。ぶなの木台ができた時には若い人が増えると思ったが、職がない、職に就いても続かないことが多く、人が増えなかった。中部縦貫自動車道が開通すると、ほとんどの人が大野に出るか福井に出るかだと思う。和泉に学校を残してほしいというのはありがたいが、現状は難しいと思う。

【委員】大野に仕事がないとの話があったが、３０分あれば福井に働きに行ける。高速を使えば１時間程度で金沢に買い物に行ける。決して住みにくいところではないと思う。食べ物や水はおいしい、人はいい、犯罪は少ない、雪は良く降るが除雪はしっかりしていて、こんなに住みやすいところはないと思う。職がないという点だけで人が離れていくとは考えない方がいいと思う。

先ほど平等な教育の話が出たが、学校教育関係者として拠りどころは学習指導要領で、それに従って教育をしている。それを実現することが全ての基準で、それが満足できる教育を行うことが学校教育の責務であり、それを平等に担保する必要がある。複式は特例だという話が出たが、土地柄複式学級ができてしまうところがあるので、学習指導要領に近いことをやって実現させている。学習指導要領を実現しないと教員は責任が果たせないと思っている。学習指導要領を大事にしながら学校の特色を出す。複式学級を学校の特色にしてしまうのは間違いだと思う。学習指導要領を守りながら学校の特色を出すことが、最終的には大野の特徴的な教育になっていくと思う。

【委員】保護者として、教育もさることながら通学距離や通学方法を大切に考えている。そこに保護者と教員の責務との間で開きがあるのかなと感じた。学習指導要領に従った教育を受けることよりも、子どもたちが歩いていける距離、四季を感じて学校に行けることを重要視している。大野市で独自の指導要領を用意したりはできないのか。

【事務局】指導要領については、国の定めているものに従ってやらなければいけないので、県独自や市独自で作ることはできない。複式学級も国の学習指導要領に従ってそれを満たす教育をやっている。

【委員長】情報提供になるが、中央教育審議会という文部科学省の諮問機関がある。そこの初等中等教育分科会が令和２年１０月７日に中間まとめとして「令和の日本型学校教育」の構築を目指してという報告書を出している。その中に人口動態等を踏まえた学校運営や学校施設の在り方についてというまとめが出されている。児童生徒の減少による学校規模の小規模化を踏まえた学校運営などが報告書として出されているので、次回までにご一読いただけるとありがたいと思う。事務局で資料の準備をお願いしたい。学習指導要領は１０年おきに

改定していく。少しずつ時代に即した形に改定していっている。

前半は教育長から学校教育の在り方について、教育委員会の考える姿勢を示していただいた。後半は和泉地区のことについて、話をしていただいた。今日の話では、和泉地区のことについて結論出すことが難しいと思う。引き続き和泉地区のことについては、別扱いにするのか、一緒に考えていくのか、並行し論議をしていくということで、今日は結論を出さなくてよろしいか。

――＜委員了承＞――

【委員長】和泉地区のことについて、改めて情報が入ったので、今後どうすべきか並行して考えていただきたいと思う。

次回の会議内容について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】次回の会議については、小中学校再編の何らかの方向性、結論を出していただきたいと考えている。それに向かい、今までの意見や教育委員会の方針を整理したものを作成し事前に配布させていただくので、次回議論いただきたいと思う。

今年度中に再編計画（案）を作成するために、次回である程度の方向性を出していただきたい。

【委員長】次回は今までの論点を整理し、それに沿った形で議論していただけるようにしていきたいと思う。今までの論議を確認しながらお越しいただきたい。

議事については、以上とする。

【その他】

【事務局】次回の会議は１１月２４日（火）に結とぴあで開催する。

次回については、午後７時から開催とする。冬の会議については雪の状況もあるので、あらかじめ日程調整し、日中開催も検討させていただきたいと思う。

【事務局】以上で本日の日程を終了する。

【閉会】

――＜副委員長あいさつ＞――

【副委員長】前回まで小中学校再編について、いろんな角度から話し合いが進められて、意見が寄り添い折り合いがついてきたのかなと感じていたが、本日、大野市が目指す学校教育が新たに提示されたことで、また違う方面からの真摯な意見が出てきたと思う。教育長の話の中でも、大野市の子どもたちのことを考えて慎重に丁寧に着実に進めたい会議だと強調されていた。これまでの委員の皆さんの意見はどれも大野の子どものことを思っての意見だったと思う。次回はいよいよ小中学校の再編について何らかの形でまとめてとの話があったので、最終的によりよいものでまとめていけるようにご協力をお願いしたい。